

連載

# 母が、脳梗塞になりました。最終回



しげ まる子

さいたま市在住  
主婦 63歳。パート勤務  
子育ても終わり夫と2人暮らし  
孫5人

〜母のことをしてあげられる幸せ〜

退院翌日、面会予約が取れました。母の体調が心配です。「お母さん大丈夫?」「うん大丈夫よ。一人部屋でゆっくり出来た。施設に戻れて良かったよ。もうここがあたしの家やね。ありがとう、まるちゃん」

あたしなんか、なんにもしてないよ。お母さんが頑張ってくれたから……。でも良かった、心も落ち着いて来てくれる。

退院してからは、施設の方もなるべく母を一人にしないうちに談話室に連れて行ってくれたり、違うフロアで気が合いそうな方とお話する機会を作ってくれたり、いろいろな工夫をしてくれました。

母も、可愛がってもらえるように努力していると聞いています。それが施設の方に通じたのか、あたしが面会に行くと、施設の方に「まる子さんのお母さんは、いつ

も明るくて楽しいです」とか「いつも笑ってくれるからこちらまで嬉しくなっちゃっ」なんて言ってもらえます。また、この間は「新しい方にあれこれ教えてくれたり、みんなでお話ししてる時、痴呆症ちほうしょうの方にも話を振ってくれたりして助かってます」と褒めてもらいました。さすが九州女の気働き! あたしも見習わないと。本当に母はわたしの誇りです。母が施設で、健やかに過ごしてくれたり、もうあたしはそれで幸せ。

施設では、食事や着替え、お風呂など、日常生活に必要なことは何でもしてくれませんが、個人的に必要なものはこちらで用意します。例えば、目薬や化粧水。

母は片手が不自由なので、買う前に、ふたが開けやすいかどうか試したり、店員さんに相談してから買います。一番難しいのは洋服ですね。着替えの介助はしてくれ

ますが、半身が不自由なので、着脱が楽でストレッチ性があり、着心地の良いものでなければいけません。

それにやっぱり女性だから、ちょっと小洒落た感じにもしてあげたい。となるとあっちのお店、こっちのお店と、休みの度に、母の洋服探しに走ります。母のリクエストにぴったりの服はなかなか見つからないけど、母に喜んでもらいたいし、何より母のことをしてあげられることが嬉しいです。そしてまた、その時のあーだこーだといふ会話が楽しいんです。

時々、まる子は考えます。倒れる前、母は福岡の家で死にたいと言っていたけれど、本当にそうならどうだっただろう？ 何もしてあげられず、申し訳ない気持ちでいっぱいだったろうな。

突然の脳梗塞。時間もなく、選択肢がどんどん狭まる中、私は、本当に悩みました。いろんな方に相談し、何度も自分に問いかけました。結果、母を施設に入れることになりました。母は、「こんな体のあたしを家で介護するのは無理だよ。施設の人みんな優しいし、不自由なく暮らせているよ」とは言ってくれているけど、本当はいろんな思いがあると思います。

だから、面会に行った時は、なるべく母に笑ってもらえるように、いろいろなネタを考えたりします。面会時間が終わると、母はいつもエレベーターまで送ってくれま



す。ドアが閉まるまで手を振り合います。閉まった後は切なくなりません。お母さん、ほんとにこれで良かった？ あたし、間違っていないかな？  
でも、一つだけ言えること。それは、まる子はお母さんが大好きで、お母さんの元に生まれてきて良かったってこと。もっ少し、あたしのこと見守っててね。まる子頑張るから。

1年間、しげまる子を応援してくださり、本当にありがとうございました。このお話は、一旦この回で終わります。あたしが、なぜこのお話を書くかと思っただのか……。それは、あたしにもよくわかりません。たぶんいろんなことがありすぎて、誰かに聞いて欲しかったのかなと思います。

それと、あたしのように親の介護で大変な方もたくさんおられると思います。そんな方々と少しでも気持ちを分かち合い、ちょっと笑っていただけたらと思います。書かせてもらいました。

ではでは、まる子はこらで失礼致します。またお邪魔する機会があるかもしれません。その時は温かく迎えてくださいね。  
(おわり)